



## 癌内線維芽細胞とRECKに関する 高橋智聡教授との共同研究

主任教授 折茂 彰

*Orimo Akira*

順天堂大学医学部  
病理・腫瘍学講座

金沢大学の先生方にはいつも大変お世話になっております。この度、腫瘍分子生物学研究分野 高橋智聡教授と共同研究をさせていただいているご縁で、このような紹介の機会をいただき誠にありがとうございます。高橋先生とは2001年夏に米国マサチューセッツ州のColrainにある故David Livingston博士(Dana-Farber Cancer Institute, Harvard medical school)の別荘で行われた研究進捗会でお会いしました。高橋先生はMark Ewen lab(Dana-Farber Cancer Institute)でRbの研究を、私はBob Weinberg lab(Whitehead Institute, MIT)で乳癌の線維芽細胞の研究をしていました。夜の食事会ではRbや癌微小環境に関して熱く語りあったことを今でも覚えています。野田亮先生(京都大学)がWeinberg博士の書籍“Racing to the Beginning of the Road”を翻訳されたご縁で、2005年に京都大学でセミナーをさせていただき、高橋先生との再会が叶いました。高橋先生は野田先生のもとで、RECK遺伝子に関しての研究を継続されていました。



私は米国でのポストドクを終えた後、英国のCancer Research UK Manchester Instituteを経て、2012年に順天堂大学に赴任しました。高橋先生は2009年に現職の金沢大学の教授に就任されました。2015年には高橋先生が代表世話人を務められた日本癌学会主催・金沢大学がん進展制御研究所共催、日本癌学会シンポジウム・共同利用共同研究拠点シンポジウム(ジョイント)「がん幹細胞・微小環境・薬剤耐性・分子標的～がん進展制御への挑戦」の演者にお声がけいただきました。帰国後は、学会や研究会などでお会いできる機会も増え、お世話になっております。

2022年度共同研究課題「癌内線維芽細胞による癌細胞内RECK活性の制御機構の解明」が採択されました。癌微小環境に対するRECK遺伝子の役割を明らかにするために、癌微小環境のメインの構成細胞である線維芽細胞と癌細胞の相互作用がどのようにRECK活性を制御するのかについて研究を進める予定です。個人的には、癌化の初期に線維芽細胞が癌細胞周囲にリクルートされ、RECK活性を低下させて、癌浸潤を促進しているのではないかと推測しています。この研究が面白い方向に進むように、高橋先生と一緒に頑張りたいと思います。今後ともご指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

